

---

令和3年度

桐蔭学園 高等学校 学力検査問題

国 語

令和3年2月11日 施行

---

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この冊子の中を見てはいけません。
2. 机の上には、鉛筆・消しゴム・受験票・座席券・時計以外のものを置いてはいけません。受験生どうしの貸し借りもできません。また、机の中には、自分のマークシート冊子以外、何も入れてはいけません。
3. 携帯電話は、必ず電源を切って、かばんの中に入れておいてください。
4. 問題冊子の印刷が見えづらかったり、ページが不足したりしている場合、また、鉛筆を落としたり、体の調子が悪くなったりした時は、だまって手をあげてください。
5. 問題冊子の余白などは、自由に利用してかまいませんが、どのページも切りはなしてはいけません。
6. 問題は26ページまであります。
7. 問題冊子は持ち帰ってください。

## 第一問

次のA～Eの各文について、傍線部のカタカナと同じ漢字を用いるものを、それぞれの選択肢の中から一つずつ選び、

その番号をマークしなさい。

A 部長が昇進し、取締役にシユウニンした。

1. 企業のシユウエキを向上させる。

2. 客席のカンシユウが一斉に拍手をした。

3. 全社員が本社へとサンシユウする。

4. 元日本代表選手のキョシユウが注目される。

B 「ご意見につきましては、ゼンシヨさせていただきます。」

1. 衝突事故のスンゼンでからも脱出した。

2. 不測の事態に備えてジゼンの策を考える。

3. 「ダンゼン彼が適任者だ。」

4. 壊れた建物をシユウゼンする。

C 他人の胸の内をスイリヨウする。

1. 自国のリヨウドがおびやかされる。

2. リヨウシに害獣の駆除を依頼する。

3. 指導者としてのキリヨウがある。

4. 結論を出すにはザイリヨウが必要だ。

D フクザツ多岐<sup>たき</sup>にわたる難しい問題だ。

1. フクシヨウとして、十万円をもらった。

2. 結婚してコウフクな家庭を築く。

3. この菓を一日三回フクヨウしている。

4. トンボの目はフクガンだ。

E 読み終えた小説の内容をカンケツに説明した。

1. 大統領から感謝をあらわすシヨカンが送られてきた。

2. それはカンカすることのできない問題だ。

3. 昨日は一日中カندانなく雨が降り続いていた。

4. マラソンコースをカンソウする。

## 第二問 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

今回の「新型コロナウイルス肺炎」の蔓延は、二つの意味で「歴史的」な事件と見なされることだろう。まずはもちろん、これが現代史を分かつ画期的な惨事として、未来の文明に深い影響を残すだろうからである。だがそれ以上に大きい意味は、<sup>①</sup>この悲劇が近代人の秘められた傲慢に冷や水を浴びせ、人類の過去の文明、都市文明発祥以来の歴史への復帰を促すと考えられることである。

近代と呼ばれる時代にはいくつかの段階があるが、その段階を自覚することに人類は傲慢になってきた。工業が誕生して富が天候に左右されなくなるにつれて、幼児死亡率が減って平均寿命が延びるにつれて、人類は過去とは異質の時代にはいったと錯覚してきた。近代化への「離陸（テイク・オフ）」が世間の標語となり、人は幸不幸の両面を含めて古い昔とは別世界にはいったと妄信した。

だが悪疫の流行という目前の惨事は、あまりにもあけすけにこの傲慢をあざ笑った。感染という言葉こそ新しいが、病気が移り、はやるといふ現象には千年前と何の違いがあるのか。目に見えぬ恐怖に脅えるという実感のうえで、現状は西洋中世のペストや日本の瘧（主にマラリアを原因とする熱病）とどこが異なるのか。近代は世界の空間を広げ、グローバル化を達成したと思っていたが、今回のウイルスはその全体を覆っているのだから、逃げ場がないという意味では前近代の村落と同じではないか。

さらに考えると、<sup>②</sup>現代人の不安と恐怖は中世人の怯えよりも過酷だといえる。中世においてはまず死が日常のなかであつて、人々がそれに耐える感性を備えていたからである。戦争が日々街なかで闘われ、斬首や<sup>①</sup>獄門という刑も大衆の面前で執行された。もとより餓死者や病死者の数も多く、街頭で行き倒れを見る機会も少なくなかった。人々は家族の死を家庭的なかで看取り、<sup>②</sup>湯灌から納棺、土葬までみずからの手でおこなっていた。

これに応じて民衆の心の備えも手厚く、信仰心も強ければ世界観としての<sup>③</sup>無常感も身につけていた。とりわけ日本人の無常感は独特の感性であって、特定の宗教宗派を超えてこの世と我が身の<sup>はかな</sup>儚さを見明きらめ、そのことをおびただしい歌に詠んで、<sup>ことわざ</sup>諺にも記してみずからに言い聴かせてきたのだった。

一方、現代人は長らく死から逃避<sup>とうひ</sup>し、死から目をそむける習慣を養ってきた。死体の処理は専門家の手に委ね、葬儀<sup>そとうぎ</sup>でさえしだいに簡略化する方向を選んできた。とくに第二次世界大戦後の日本人は戦死者を見聞する機会もなく、長寿社会<sup>ちやうじゆ</sup>を謳歌<sup>おうか</sup>するなかで死を直視する強靱<sup>きやうじん</sup>さを失ってきた。昨今の報道で新型コロナウイルス肺炎による国内外の死者の数を知り、死が他人事ではないことを感じる恐怖は格別に深いはずなのである。

ちなみに近代にも世界的感染拡大（パンデミック）の記録はあって、それがあまり記憶<sup>きおく</sup>されていないのが不思議とされている。ほかならぬ俗称「スペイン風邪<sup>かぜ</sup>」であって、一九一八年から翌年にかけて世界では二五〇〇万人、日本でも三九万人の死者を出した大惨劇<sup>だいさんげき</sup>であった。これが容易に忘れられたのは不審<sup>ふしん</sup>だという声もあるが、<sup>※</sup>管見<sup>かんけん</sup>によれば理由は単純であって、事件がまさに第一次世界大戦の終末期に起こったからである。人心が人間の死に慣れ、しかも平和の喜びという別の興奮<sup>わ</sup>に沸いていたのが特殊<sup>とくしゆ</sup>事情であった。

さらに二〇年を挟<sup>はさ</sup>んで二〇世紀には第二次世界大戦も起こり、その陰で<sup>④</sup>「スペイン風邪」は歴史的記念碑となる機会を失った。その点、今日の新型コロナウイルス肺炎はやはり独特であって、冒頭<sup>ぼうとう</sup>に述べた歴史の転換点を刻印する可能性は十分にある。第一に、「<sup>※</sup>相互確証破壊（MAD）」の深化とそれを指導者が自覚したことによって、第三次世界大戦の恐れは小さくなった。第二に、問題のパンデミックが近代化の最先進国、アメリカとヨーロッパ、それに日本を深く<sup>えぐ</sup>剔<sup>え</sup>つたからにほかならない。

数々の自然災害と比べても、感染症の人に与える恐怖と不安は独特のものであって、深刻<sup>けつかく</sup>さは桁<sup>けた</sup>はずれに大きい。

しかしとくに近代人にとってこの災害が耐えがたいのは、それに対抗して【a】【b】【c】【d】【e】【f】【g】【h】【i】【j】【k】【l】【m】【n】【o】【p】【q】【r】【s】【t】【u】【v】【w】【x】【y】【z】【aa】【ab】【ac】【ad】【ae】【af】【ag】【ah】【ai】【aj】【ak】【al】【am】【an】【ao】【ap】【aq】【ar】【as】【at】【au】【av】【aw】【ax】【ay】【az】【ba】【bb】【bc】【bd】【be】【bf】【bg】【bh】【bi】【bj】【bk】【bl】【bm】【bn】【bo】【bp】【bq】【br】【bs】【bt】【bu】【bv】【bw】【bx】【by】【bz】【ca】【cb】【cc】【cd】【ce】【cf】【cg】【ch】【ci】【cj】【ck】【cl】【cm】【cn】【co】【cp】【cq】【cr】【cs】【ct】【cu】【cv】【cw】【cx】【cy】【cz】【da】【db】【dc】【dd】【de】【df】【dg】【dh】【di】【dj】【dk】【dl】【dm】【dn】【do】【dp】【dq】【dr】【ds】【dt】【du】【dv】【dw】【dx】【dy】【dz】【ea】【eb】【ec】【ed】【ee】【ef】【eg】【eh】【ei】【ej】【ek】【el】【em】【en】【eo】【ep】【eq】【er】【es】【et】【eu】【ev】【ew】【ex】【ey】【ez】【fa】【fb】【fc】【fd】【fe】【ff】【fg】【fh】【fi】【fj】【fk】【fl】【fm】【fn】【fo】【fp】【fq】【fr】【fs】【ft】【fu】【fv】【fw】【fx】【fy】【fz】【ga】【gb】【gc】【gd】【ge】【gf】【gg】【gh】【gi】【gj】【gk】【gl】【gm】【gn】【go】【gp】【gq】【gr】【gs】【gt】【gu】【gv】【gw】【gx】【gy】【gz】【ha】【hb】【hc】【hd】【he】【hf】【hg】【hh】【hi】【hj】【hk】【hl】【hm】【hn】【ho】【hp】【hq】【hr】【hs】【ht】【hu】【hv】【hw】【hx】【hy】【hz】【ia】【ib】【ic】【id】【ie】【if】【ig】【ih】【ii】【ij】【ik】【il】【im】【in】【io】【ip】【iq】【ir】【is】【it】【iu】【iv】【iw】【ix】【iy】【iz】【ja】【jb】【jc】【jd】【je】【jf】【jg】【jh】【ji】【jj】【jk】【jl】【jm】【jn】【jo】【jp】【jq】【jr】【js】【jt】【ju】【jv】【jw】【jx】【jy】【jz】【ka】【kb】【kc】【kd】【ke】【kf】【kg】【kh】【ki】【kj】【kk】【kl】【km】【kn】【ko】【kp】【kq】【kr】【ks】【kt】【ku】【kv】【kw】【kx】【ky】【kz】【la】【lb】【lc】【ld】【le】【lf】【lg】【lh】【li】【lj】【lk】【ll】【lm】【ln】【lo】【lp】【lq】【lr】【ls】【lt】【lu】【lv】【lw】【lx】【ly】【lz】【ma】【mb】【mc】【md】【me】【mf】【mg】【mh】【mi】【mj】【mk】【ml】【mm】【mn】【mo】【mp】【mq】【mr】【ms】【mt】【mu】【mv】【mw】【mx】【my】【mz】【na】【nb】【nc】【nd】【ne】【nf】【ng】【nh】【ni】【nj】【nk】【nl】【nm】【nn】【no】【np】【nq】【nr】【ns】【nt】【nu】【nv】【nw】【nx】【ny】【nz】【oa】【ob】【oc】【od】【oe】【of】【og】【oh】【oi】【oj】【ok】【ol】【om】【on】【oo】【op】【oq】【or】【os】【ot】【ou】【ov】【ow】【ox】【oy】【oz】【pa】【pb】【pc】【pd】【pe】【pf】【pg】【ph】【pi】【pj】【pk】【pl】【pm】【pn】【po】【pp】【pq】【pr】【ps】【pt】【pu】【pv】【pw】【px】【py】【pz】【qa】【qb】【qc】【qd】【qe】【qf】【qg】【qh】【qi】【qj】【qk】【ql】【qm】【qn】【qo】【qp】【qq】【qr】【qs】【qt】【qu】【qv】【qw】【qx】【qy】【qz】【ra】【rb】【rc】【rd】【re】【rf】【rg】【rh】【ri】【rj】【rk】【rl】【rm】【rn】【ro】【rp】【rq】【rr】【rs】【rt】【ru】【rv】【rw】【rx】【ry】【rz】【sa】【sb】【sc】【sd】【se】【sf】【sg】【sh】【si】【sj】【sk】【sl】【sm】【sn】【so】【sp】【sq】【sr】【ss】【st】【su】【sv】【sw】【sx】【sy】【sz】【ta】【tb】【tc】【td】【te】【tf】【tg】【th】【ti】【tj】【tk】【tl】【tm】【tn】【to】【tp】【tq】【tr】【ts】【tt】【tu】【tv】【tw】【tx】【ty】【tz】【ua】【ub】【uc】【ud】【ue】【uf】【ug】【uh】【ui】【uj】【uk】【ul】【um】【un】【uo】【up】【uq】【ur】【us】【ut】【uu】【uv】【uw】【ux】【uy】【uz】【va】【vb】【vc】【vd】【ve】【vf】【vg】【vh】【vi】【vj】【vk】【vl】【vm】【vn】【vo】【vp】【vq】【vr】【vs】【vt】【vu】【vv】【vw】【vx】【vy】【vz】【wa】【wb】【wc】【wd】【we】【wf】【wg】【wh】【wi】【wj】【wk】【wl】【wm】【wn】【wo】【wp】【wq】【wr】【ws】【wt】【wu】【wv】【ww】【wx】【wy】【wz】【xa】【xb】【xc】【xd】【xe】【xf】【xg】【xh】【xi】【xj】【xk】【xl】【xm】【xn】【xo】【xp】【xq】【xr】【xs】【xt】【xu】【xv】【xw】【xx】【xy】【xz】【ya】【yb】【yc】【yd】【ye】【yf】【yg】【yh】【yi】【yj】【yk】【yl】【ym】【yn】【yo】【yp】【yq】【yr】【ys】【yt】【yu】【yv】【yw】【yx】【yy】【yz】【za】【zb】【zc】【zd】【ze】【zf】【zg】【zh】【zi】【zj】【zk】【zl】【zm】【zn】【zo】【zp】【zq】【zr】【zs】【zt】【zu】【zv】【zw】【zx】【zy】【zz】

【a】「ことがないということではないだろうか。日本政府の「緊急事態宣言」を受けて、国民が要請されているのは外出しないことであり、出勤しないことであり、営業しないことである。いずれも何かを【b】【c】【d】【e】【f】【g】【h】【i】【j】【k】【l】【m】【n】【o】【p】【q】【r】【s】【t】【u】【v】【w】【x】【y】【z】【aa】【ab】【ac】【ad】【ae】【af】【ag】【ah】【ai】【aj】【ak】【al】【am】【an】【ao】【ap】【aq】【ar】【as】【at】【au】【av】【aw】【ax】【ay】【az】【ba】【bb】【bc】【bd】【be】【bf】【bg】【bh】【bi】【bj】【bk】【bl】【bm】【bn】【bo】【bp】【bq】【br】【bs】【bt】【bu】【bv】【bw】【bx】【by】【bz】【ca】【cb】【cc】【cd】【ce】【cf】【cg】【ch】【ci】【cj】【ck】【cl】【cm】【cn】【co】【cp】【cq】【cr】【cs】【ct】【cu】【cv】【cw】【cx】【cy】【cz】【da】【db】【dc】【dd】【de】【df】【dg】【dh】【di】【dj】【dk】【dl】【dm】【dn】【do】【dp】【dq】【dr】【ds】【dt】【du】【dv】【dw】【dx】【dy】【dz】【ea】【eb】【ec】【ed】【ee】【ef】【eg】【eh】【ei】【ej】【ek】【el】【em】【en】【eo】【ep】【eq】【er】【es】【et】【eu】【ev】【ew】【ex】【ey】【ez】【fa】【fb】【fc】【fd】【fe】【ff】【fg】【fh】【fi】【fj】【fk】【fl】【fm】【fn】【fo】【fp】【fq】【fr】【fs】【ft】【fu】【fv】【fw】【fx】【fy】【fz】【ga】【gb】【gc】【gd】【ge】【gf】【gg】【gh】【gi】【gj】【gk】【gl】【gm】【gn】【go】【gp】【gq】【gr】【gs】【gt】【gu】【gv】【gw】【gx】【gy】【gz】【ha】【hb】【hc】【hd】【he】【hf】【hg】【hh】【hi】【hj】【hk】【hl】【hm】【hn】【ho】【hp】【hq】【hr】【hs】【ht】【hu】【hv】【hw】【hx】【hy】【hz】【ia】【ib】【ic】【id】【ie】【if】【ig】【ih】【ii】【ij】【ik】【il】【im】【in】【io】【ip】【iq】【ir】【is】【it】【iu】【iv】【iw】【ix】【iy】【iz】【ja】【jb】【jc】【jd】【je】【jf】【jg】【jh】【ji】【jj】【jk】【jl】【jm】【jn】【jo】【jp】【jq】【jr】【js】【jt】【ju】【jv】【jw】【jx】【jy】【jz】【ka】【kb】【kc】【kd】【ke】【kf】【kg】【kh】【ki】【kj】【kk】【kl】【km】【kn】【ko】【kp】【kq】【kr】【ks】【kt】【ku】【kv】【kw】【kx】【ky】【kz】【la】【lb】【lc】【ld】【le】【lf】【lg】【lh】【li】【lj】【lk】【ll】【lm】【ln】【lo】【lp】【lq】【lr】【ls】【lt】【lu】【lv】【lw】【lx】【ly】【lz】【ma】【mb】【mc】【md】【me】【mf】【mg】【mh】【mi】【mj】【mk】【ml】【mm】【mn】【mo】【mp】【mq】【mr】【ms】【mt】【mu】【mv】【mw】【mx】【my】【mz】【na】【nb】【nc】【nd】【ne】【nf】【ng】【nh】【ni】【nj】【nk】【nl】【nm】【nn】【no】【np】【nq】【nr】【ns】【nt】【nu】【nv】【nw】【nx】【ny】【nz】【oa】【ob】【oc】【od】【oe】【of】【og】【oh】【oi】【oj】【ok】【ol】【om】【on】【oo】【op】【oq】【or】【os】【ot】【ou】【ov】【ow】【ox】【oy】【oz】【pa】【pb】【pc】【pd】【pe】【pf】【pg】【ph】【pi】【pj】【pk】【pl】【pm】【pn】【po】【pp】【pq】【pr】【ps】【pt】【pu】【pv】【pw】【px】【py】【pz】【qa】【qb】【qc】【qd】【qe】【qf】【qg】【qh】【qi】【qj】【qk】【ql】【qm】【qn】【qo】【qp】【qq】【qr】【qs】【qt】【qu】【qv】【qw】【qx】【qy】【qz】【ra】【rb】【rc】【rd】【re】【rf】【rg】【rh】【ri】【rj】【rk】【rl】【rm】【rn】【ro】【rp】【rq】【rr】【rs】【rt】【ru】【rv】【rw】【rx】【ry】【rz】【sa】【sb】【sc】【sd】【se】【sf】【sg】【sh】【si】【sj】【sk】【sl】【sm】【sn】【so】【sp】【sq】【sr】【ss】【st】【su】【sv】【sw】【sx】【sy】【sz】【ta】【tb】【tc】【td】【te】【tf】【tg】【th】【ti】【tj】【tk】【tl】【tm】【tn】【to】【tp】【tq】【tr】【ts】【tt】【tu】【tv】【tw】【tx】【ty】【tz】【ua】【ub】【uc】【ud】【ue】【uf】【ug】【uh】【ui】【uj】【uk】【ul】【um】【un】【uo】【up】【uq】【ur】【us】【ut】【uu】【uv】【uw】【ux】【uy】【uz】【va】【vb】【vc】【vd】【ve】【vf】【vg】【vh】【vi】【vj】【vk】【vl】【vm】【vn】【vo】【vp】【vq】【vr】【vs】【vt】【vu】【vv】【vw】【vx】【vy】【vz】【wa】【wb】【wc】【wd】【we】【wf】【wg】【wh】【wi】【wj】【wk】【wl】【wm】【wn】【wo】【wp】【wq】【wr】【ws】【wt】【wu】【wv】【ww】【wx】【wy】【wz】【xa】【xb】【xc】【xd】【xe】【xf】【xg】【xh】【xi】【xj】【xk】【xl】【xm】【xn】【xo】【xp】【xq】【xr】【xs】【xt】【xu】【xv】【xw】【xx】【xy】【xz】【ya】【yb】【yc】【yd】【ye】【yf】【yg】【yh】【yi】【yj】【yk】【yl】【ym】【yn】【yo】【yp】【yq】【yr】【ys】【yt】【yu】【yv】【yw】【yx】【yy】【yz】【za】【zb】【zc】【zd】【ze】【zf】【zg】【zh】【zi】【zj】【zk】【zl】【zm】【zn】【zo】【zp】【zq】【zr】【zs】【zt】【zu】【zv】【zw】【zx】【zy】【zz】

目下、働いているのは医師、看護師、検査技師といった医療従事者であり、この専門家の壮烈な奮闘ぶりは日々報道されている。そのほかにいわゆる「エッセンシャル・ワーカー」と呼ばれる人々が、輸送や物流の最前線を支えていることが知られている。一般の国民は彼らの奮励と自己犠牲を目の当たりにするにつけ、ますます自分が何もしていない現実を思い知らされることになる。

振り返れば近代的な人間にとって、何もしないことが美德であった経験は一度もない。※<sub>5</sub> マックス・ヴェーバーの説く資本主義の徳目の筆頭は、いうまでもなく時間を惜しんで働き続けることであった。とりわけ日本人は近代以前から勤勉であり、宗教的な「※<sub>6</sub>。安息日」の観念を持たないこともあって、休むことが奨励に値いするなどは夢にも思ったことがなかった。「緊急事態宣言」発令後の国民の動向を見ても面白いが、明らかに週日の通勤日の外出者の数が多く、週末の行楽外出の数を上回っているのが報じられている。

⑤この点でもう一つ忘れてはならないのは、近年のボランティア活動の普及であって、緊急時には奉仕のために身を挺「する」という常識が広まっていることだろう。この活動はほぼ「※<sub>7</sub> 阪神淡路大震災」のころに盛り上がって定着し、日本人の社会意識の大きな転換を反映したものであった。それまでの数世紀にわたって、日本人の社会奉仕は血縁・地縁の範囲に限られ

ていて、民衆が善意を發揮する相手は義理と人情の及ぶ顔見知りだけであった。それが「阪神淡路大震災」では全国から延べ百数十万の有志が結集して、昨日まで何の縁もゆかりもなかった被災者を救済した。

これは日本人にとって倫理感覚の大転換であり、新しい公德心の目覚めだと私は考えるのだが、東日本大震災、熊本地震など長らく続いた<sup>※8</sup> 醇風も今回は禁じられた。それどころか今は血縁・地縁者に犠牲がなくても、助けに行か「ない」ことが美德とされているのである。「緊急事態宣言」から二週間、テレビに取材される日本人の表情は穏やかで、ただ「ストレスが溜ま<sup>た</sup>る」、「いらいらが募<sup>つ</sup>る」と呟くばかりだが、こうして察すると国民の耐えている心情の奥行きはかなり深いといえる。

<sup>※9</sup> つけたりだが、耐え忍ぶ国民のために一言だけ加えれば、なぜか政府もジャーナリズムもこの数ヶ月、「コロナとの闘い」を口にしながら、闘いの攻めの部分の情報を十分に伝えていないのは奇妙である。医療現場の苦闘の様子は周知されているが、それはあたかも負け戦のようなありさまに重点が置かれ、人材や器具機材の不足ばかりが訴<sup>う</sup>えられている。この闘いの勝ち戦への側面、すなわち治療法と特効薬の発見、とりわけワクチンの開発状況については情報不足が著しいのである。

管見するところでは、「日経サイエンス」誌の二〇二〇年五月号がただ一つ、勝ち戦の朗報と呼べる記事を載せていて、新感染症が国際的に認知されて一カ月の内に、早くも医学者はウイルスの蛋白質<sup>たんぱく</sup>の立体構造、遺伝子の塩基配列を発見し、ワクチン製造の端緒に漕ぎ着けたと報じている。ひたすら隠忍の今の日本人の糧<sup>かて</sup>となるのはこういう情報であって、最低一、二年はかかるといわれるワクチン完成についても、刻々にどの段階までできたのか、期間の短縮にはどんな支援<sup>しえん</sup>が必要で何がなされているかを報<sup>し</sup>せることだろう。

取材される国民の表情は穏やかだと書いたが、間違いなく、「緊急事態宣言」後の日本人の行動ぶりは国際的に見ても良識に満ちている。アメリカやインドで外出自粛<sup>じしゆく</sup>への反発が強まり、デモや暴動が起こったりしているのを見るにつけて、繁華街も観光地も閑散<sup>かんさん</sup>とさせ、学習塾や老人介護施設の一部自主休業にまで甘んじた自制心は特記に値する。企業の在宅勤務は宣言の発令まえから始まり、出勤時間の短縮を加えるとともに事務室の大半は空席と化している。組織に親しみ、和合を尊ん

で働いてきた企業人間が、孤立と自己管理の厳しさをみずからに課している。反対に、これまで独立自尊の労働を営んできた  
れいさい 零細自営業者は、一斉に休業の勧告を受け入れ、あるいは無収入の窮状を忍び、あるいは工夫を凝らして共同事業の道を模索  
している。

日本人の良識と自制心は長い歴史を持ち、※10 ラフカディオ・ハーンの見聞記にも記録されているが、<sup>⑥</sup> 現に今、静かに発揮  
されている公德心はやや後にあらためて養われたものだ、と私は考えている。たとえば前回の東京オリンピックのまえ、一九  
六〇年代前半の東京では、街にも水路にも家庭ゴミが散乱して腐臭を放っていた。オリンピックを迎える準備のなかで行政  
が奮起して、ゴミ入れのペール缶を家庭に配布し、ゴミ収集車を配備してようやく街からゴミの姿が消えたのだった。

日本人の社会感覚が顕著に変わり、美と倫理の基準が新しく芽生え直したのは、私の記憶では一九七〇年代の初めではな  
かったかと思う。たまたま富士ゼロックスの企業広告が七〇年、「モーレッツからビューティフルへ」と訴えたのが印象的だっ  
たが、その後の歴史はこの標語を忠実に実現するものになった。

経済成長はまだ続いていたものの、その内容はしだいにハードからソフトへと変わり、量産一点張りからデザインや※11 コ  
ンセプト重視へと移っていった。ほかでもすでに書いたが、このころ隆盛を見せ始めたTシャツが典型的であって、原料費  
一〇〇円の木綿布にたいして、デザインを施すと三〇〇〇円で売れるというギャップにも、苦情を言う人はいなくなった。商  
品全体の多様化も足早に進み、「多品種少量生産」がスローガンとされるにつれて、デザインの文化性、さらに文化産業への傾  
倒はますます強まることになった。

身边を美しくすることに関心が移るのに並行して、同じころから人々がおこないを美しくすることに傾き始めたのは、面白  
い暗合であった。八〇年代には、銀座で立ち小便をする紳士の姿は消え、交通渋滞に苛立つてクラクションを鳴らす運転者  
は皆無となった。犯罪率が低下したのはもちろん、家庭ゴミを分別して出す習慣が確立し、駅の乗車口で乗客が行列して待つ  
風景も普通になった。落とし物や忘れ物が持ち主に返る割合で現在の日本は世界一であり、現金入りの財布でさえ警察に届け

られる希有<sup>けう</sup>の国である。それらの頂点として、ボランティア活動が不動の風習となったのが一九九五年一月であり、その美德はつい昨日まで栄え続けたのであった。

はたしてこの日本人の美德が国難に勝ち、このままぶじに最終局面を迎えられるかどうかはわからない。意外な<sup>A</sup>七転八倒<sup>しちてんぱつたう</sup>が待ち受けている恐れもないではないが、歴史上すべての疫病<sup>えきびょう</sup>はいずれ終息することが知られている。<sup>⑦</sup>現在の新型コロナウイルス肺炎<sup>せいん</sup>の去った後に、どんな将来世界が残るのか、いな、残さねばならないかは今から考えておいてよい課題だろう。

十四世紀のペスト大流行の結果、西洋社会が構造的変化を見せ、封建時代の終わりを準備したというのは有力な説である。人口の激減が荘園経営を困難にし、労働生産性を高めたのが産業近代化への道を開いたというのだが、もしそうなら同じ程度の変化が二十一世紀に起こるとは考え難い。遠い未来に現れる影響は予言できないが、当面の世界は別の緊急の問題を抱えていることが、このコロナ禍によって先鋭に暴露されたからである。

ほかならぬグローバル化がそれであって、これが疫病流行の直接の原因だったことは問わないまでも、この災厄<sup>さいやく</sup>の防御<sup>ぼうえぎよ</sup>に何の役にも立たなかったことは露骨なほど明白だった。民衆を守ったのは国家であって、それも自衛のために一国主義的に働く国家であった。この国家の姿勢<sup>せいし</sup>の是非<sup>ぜひ</sup>は暫く<sup>しばひ</sup>措いて<sup>お</sup>、万人が思い出したのは、市場は富の分配には貢献<sup>こうけん</sup>するが、富の再分配に役立つのは国家だけだ、という永遠の真理ではなかっただろうか。

たぶん今後の人類はグローバル化の暴走には慎重<sup>しんちゆう</sup>になり、とくに巨大グローバル企業の国家への挑戦に批判的になるだろう。納税すべき国家を巨大企業が選択できるような事態を避け、民意が企業経営に及ぶ政治体制を維持<sup>いじ</sup>するために、あらためて国際協定の努力が期待されるし、それが必須<sup>ひつす</sup>になるだろう。

もう一つ、その国家が泥沼<sup>どろぬま</sup>を脱した後に急ぐべきことは、未来世代との平等の問題であり、今回の緊急対策で生じた天文学的に巨大な将来への借財の処理である。そのためには経済の回復に努めるとともに、思い切った所得税改革による高度累進課<sup>るいしん</sup>税の復活を図るのも一策だろうし、思いつきだが、排他的経済水域内の海底資源を前もって国有化しておくのも知恵だろう。

レアメタル、レアアースを含む日本近海は財源の宝庫であり、採掘者に特別に高額の税を課して、未来世代への遺産とすることも一考に値するはずである。

しかしそうした現実の課題と並んで、おそらくそれ以上に重大なのは、<sup>⑧</sup>やがて起こり始める国民各自の世界観の転換である。冒頭で述べたことだが、今回の歴史的な悲劇を経験することを通じて、誰しも実感したのは自己が密かに抱いてきた近代的な傲慢だったにちがいない。疫病が社会を世界規模で揺るがすのは昔の話であって、現代はつとに別次元の時代を画しているという通念が傲慢にほかならず、ただの妄信にすぎなかったことを万人が思い知ったのではないだろうか。

現代もまた歴史的に古代や中世に直結しており、その間に多彩な変化や改良は試みられたものの、文明の進歩と呼びうる価値的な飛躍は起こらなかった。文明は自然との交渉のなかで勝つたことは一度もなく、何千年も暫時の妥協を繰り返してきたにすぎない。今後もその事態は続くだろうし、人類は文明を守る努力は捨てられないが、文明を進歩させるといふ迷信は諦めるべきである。当面の現実を変える<sup>B</sup>刻苦勉励は怠ることなく、しかしそれが歴史を画するという世界観、進歩主義の<sup>※12</sup>イデオロギーは忘れなければならない。

おそらく二十一世紀の時代思想として、今後の日本人はこのように考えを改めるだろうし、そうあってほしいというのが私の願いである。そしてさらに私の願いを広げれば、今回の経験が伝統的な日本の世界観、現実を無常と見る感受性の復活に繋がってほしいと考える。無常感<sup>A</sup>は国民の健全な思想であって、間違っても感傷的な虚無主義ではない。現実変革の具体的な知恵と技を發揮しながら、にもかかわらずそれを無常の営み、いずれは<sup>※13</sup>塵埃に返るつかのまの達成にすぎないと見明きらめる、醒めた感受性なのである。

<sup>⑨</sup>「色は匂へと散りぬるを、我が世たれそ常ならむ」。かな文字を読むすべての国民が学んだこの真実が、今、人知れず反芻され共有されつつあるように思われてならない。

やまごきまごかず  
(山崎正和「21世紀の感染症と文明」より)

- ※1 獄門 江戸時代の刑罰のうちのひとつ。
- ※2 湯灌 葬式そうしきに際して遺体を洗淨せんじようすること。
- ※3 管見 筆者が自分の意見を謙遜けんそんして述べる言い方。
- ※4 相互確証破壊 (MAD) 核兵器保有国同士が、決定的な破壊能力を互いに保有することにより、核兵器による戦争を抑止しようとする考え方。
- ※5 マックス・ヴェーバー 主に二十世紀初頭に活動したドイツの社会学者。
- ※6 安息日 宗教的な理由によって、仕事を休むように定められた日。
- ※7 阪神淡路大震災 一九九五年一月に起きた、兵庫県南部を震源とした大地震による災害。
- ※8 醇風 人情にあつい風習。
- ※9 つけたり 付け加え。
- ※10 ラフカディオ・ハーン 主に明治時代に日本で活動した外国人作家。日本国籍こくせきを取得して小泉八雲こいずみやくもと名乗った。
- ※11 コンセプト ここでは商品の全体につらぬかれた、骨格となる発想や観点。
- ※12 イデオロギー ここでは政治や社会のあるべき姿についての考え方。
- ※13 塵埃 ちりとほこり。

問 1 傍線部①「この悲劇が近代人の秘められた傲慢（ごうまん）に冷や水を浴びせ」について、次の二つの問いに答えなさい。

一 「冷や水を浴びせ」はここではどのような意味で使われていますか。最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

1. はやる心を落ち着かせ
2. 冷静さを取り戻させ
3. 意気込みをくじき
4. 思い上がりをたきつけて

二 新型コロナウイルス・ウィルスは、近代人のどのような点に「冷や水を浴びせ」たのですか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

1. 近代化による都市文明の発達に比例して人間の生活空間を世界中のあらゆる場所に不断にひろげていくにつれて、もはや現在の自然界には自分たちの知らない場所など存在しないとうぬぼれるようになった点。
2. 近代文明の発達によって、それまでの時代のように人間の生命や財産の存在が、もはや自然によって左右されることなくなるにつれて、人類が過去とは違う次元の世界に生きていると過信するようになった点。
3. 発達した工業社会の誕生によって、近代以降の人間社会が物質的にも精神的にも豊かになっていくにつれて、近代以前の社会の生活レベルへと立ち戻るなどできないと確信するようになった点。
4. 近代文明の発達にともない、巨大化した国家が自分たちの住む世界のグローバル化を促進（そくしん）させていくにつれて、昔とは違う豊かで幸せな社会が無限に拡大していくはずだと思いつくようになった点。

問2 傍線部②「現代人の不安と恐怖は中世人の怯えよりも過酷だといえる」とありますが、筆者はどのようにしてそう考えているのですか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

1. 現代人は死を不都合な出来事だとして、自らを死と無縁なものだと考えようとするのに対して、中世人は自然死から刑死にいたるまで、生きていく上で人の死にふれないことがないために、死に対する耐性が十分についていたと考えられるから。

2. 現代人は長寿化による恩恵により、自らの不測の死に対するおびえから解放されたのに対して、中世人は日常生活の中において宗教以上に無常に対する価値観を大切にしていたために、人の死を身近な存在としてとらえていたと考えられるから。

3. 中世人の場合は、普段の生活の中で人の死に接すること自体が当たり前だという感覚が身についていたのに対して、現代人は普段から人の死から目をそむけようとする傾向があるために、人の死に対する恐怖がより強くなったと考えられるから。

4. 中世人の場合は、死というもの自体が日常的な存在であり、また死についての思想も人々の間に根付いていたのに対して、現代人は近代文明の発達により死に対する耐性を失ったために、死を受け入れられなくなってしまったと考えられるから。

問3 傍線部③「無常感」とありますが、この無常感(観)をあらわした「祇園精舎の鐘の音、諸行無常の響きあり…」の書き出しでじまる日本の古典作品の名称として正しいものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

1. 竹取物語
2. 徒然草
3. 平家物語
4. 枕草子

問4 傍線部④『スペイン風邪』<sup>かぜ</sup>とありますが、筆者によれば「スペイン風邪」の流行のどのような点が、現代の「新型コロナウイルス肺炎」の流行と違うのですか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

1. 新型コロナウイルス肺炎の場合は、比較的平和な時代に先進諸国に打撃を与えたために歴史的な大事件になったのに対して、スペイン風邪の時は感染が二つの世界大戦の間で起きたために歴史的な大事件になりえなかった点。
2. 新型コロナウイルス肺炎が、世界大戦の恐れがない時代に先進国中心の被害が拡大したのに対して、スペイン風邪の時は第一次世界大戦中という時期に、当時の日本のように近代化があまり進んでいない世界で拡大したという点。
3. スペイン風邪の時は、世界大戦での死者数が感染による死者数を大きく上回ったために感染の被害が目立たなかったのに対して、新型コロナウイルス肺炎の場合は戦争や自然災害による死者数以上に感染による死者数が多かった点。
4. スペイン風邪の時は、大量の戦死者を出した二つの世界大戦以上に重要な歴史的転換点が存在しなかったのに対して、新型コロナウイルス肺炎の場合はこのパンデミックの発生自体がまさに歴史上の重要な転換点であると言える点。

問5 空白部Xに、意味が正しくつながるように次の六つの文を順番に入れていった場合、最後の六番目にくる文はどれですか。次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

1. 新型コロナウイルスの場合、まだ第一波がいつ終わるかもわからず、終焉<sup>しゅうえん</sup>までに何波が襲来するか先が見えない。
2. ところが「スペイン風邪」の鎮静<sup>ちんせい</sup>までには三波にわたる執拗<sup>しつよう</sup>な襲来があり、その度に新しい恐怖の更新が続いた。
3. そのうえこの恐怖はいつまで続くのか、先行きがまったく見えないことも焦燥<sup>しょうそう</sup>を煽<sup>あお</sup>る。
4. 見えない敵が怖いのは人間の本性であって、何にどこまで脅<sup>おび</sup>えたらよいのか、それがわからないことが不安を倍加する。
5. もちろん地震の被害も復興に数十年を要することがあるが、少なくとも罹災<sup>りさい</sup>から復興に転じる見通しは数ヶ月の範囲<sup>はんい</sup>で立てられる。

6. 地震であれ台風であれ、自然災害は目に見えるのにたいして、感染症はその病原体も感染経路も闇<sup>やみ</sup>に隠れている。

問6 空欄部【 a 】 【 d 】に意味が正しくつながるように「する」「しない」というどちらかの語を入れていった

場合、正しい組み合わせになっているものはどれですか。次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

1. a 「しない」 b 「しない」 c 「しない」 d 「する」
2. a 「しない」 b 「する」 c 「する」 d 「しない」
3. a 「する」 b 「しない」 c 「する」 d 「しない」
4. a 「する」 b 「する」 c 「しない」 d 「する」

問7 傍線部⑤「この点でもう一つ忘れてはならないのは、近年のボランティア活動の普及であって、緊急時には奉仕のため  
に身を挺『する』という常識が広まっていることだろう」とありますが、筆者はどのような考えに基づいて「近年のボラ  
ンティア活動の普及」について「忘れてはならない」と考えているのですか。その説明として最も適切なものを次の中か  
ら一つ選び、その番号をマークしなさい。

1. 日本政府が出した「緊急事態宣言」は、多くの専門的な職業人に自己犠牲を強いるだけでなく、「阪神淡路大震災」以  
降に日本人の社会意識を大転換させた組織的なボランティア活動の精神までも否定することにつながっていきかねず、た  
いへん不本意な結果になっているということ。

2. 「阪神淡路大震災」をきっかけとした近年の一連のボランティア活動は、それまでの義理と人情に縛られた社会奉仕の  
あり方を、見ず知らずの被災者を有志の結集が助けるといふ方向に大きく転換させ、日本人を新たな公德心に目覚めさせ  
るといふ実に画期的な活動であったということ。

3. かつては血縁と地縁の範囲にしか行われなかった奉仕活動を、何の縁もゆかりもない全国の被災者に対して救済を行う  
ように大きく転換させていった近年のボランティア活動の精神が、日本政府の出した「緊急事態宣言」によって薄れる結  
果につながってはならないということ。

4. 「緊急事態宣言」は、血縁・地縁に限定された社会奉仕の精神に加え、「阪神淡路大震災」以降に定着して日本人の倫理  
観を大きく変えたボランティア精神をも封じてしまい、そのせいで必要以上に国民が無力感にさいなまれてしまっている  
のではないかということ。

問8 傍線部⑥「現に今、静かに發揮されている公德心はやや後にあらためて養われたものだ、と私は考えている」とありますが、筆者はどのような事例をもとにこう考えているのですか。適切なものを次の中から二つ選び、その番号をマークしなさい。

1. 商業デザインに文化性が問われるようになったため、そのデザインが日本人の行動基準にも影響を与えた。
2. 一九九五年一月を境にして、日本においてはボランティア活動が普遍的なものになっていった。
3. かつては東京の街一帯に散乱していた家庭ゴミが、行政の活躍によって姿を消すようになった。
4. 一九七〇年の富士ゼロックスの企業広告が、日本人の倫理感覚を問い直すきっかけとなった。
5. 日本では八〇年代以降に入ると、現金入りの財布でさえもがきちんと警察に届けられるようになった。
6. 駅の乗車口で乗客が整然と行列をつくるのが日本で普通になったのは、八〇年代ごろからだった。

問9 二重傍線部A「七転八倒」、B「刻苦勉励」のここでの意味として最も適切なものをそれぞれ一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

A 七転八倒

1. 物事の重要度の順位や立場などが逆転すること。
2. 激しい痛みのもあまりもだえ苦しむこと。
3. 何度失敗してもくじけずに奮闘ふんとうすること。
4. この世の全ての現象や存在が常に移り変わることに。

B 刻苦勉励

1. 自らの心身を苦しめるほどに努力を重ねること。
2. 他者の手を借りず、自分を励ましながら仕事をこなすこと。
3. 多くの困難に打ち勝つために必死になつて努力すること。
4. 降つてわいてくる災いや困難なやに悩み苦しみ続けること。

問10 傍線部⑦「現在の新型コロナ肺炎の去った後に、どんな将来世界が残るのか、いな、残さねばならないかは今から考えておいてよい課題だろう」とありますが、筆者が「残さねばならない」と考える社会についての記述として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

1. グローバル化が新型コロナ肺炎拡大の間接的原因であったかもしれないことを考慮し、そのようなグローバル化を押し進める巨大企業の活動によって世界の富がかたよることがないように各国が警戒しなければならぬ。そしてコロナ対策で発生した巨額の負債を未来世代にも平等に負担してもらうために、税制や資源についての新たな政策が必要である。
2. グローバル化が疫病を広める結果にはなっても、それを防ぐには無力であった現実注目し、そのような危機にあって人々を守ることができたのは、巨大グローバル企業ではなくあくまで国家であったことを忘れてはならない。そして各国がグローバル企業を統制し、将来の世代のために、残された天文学的な借金を処理する方策を考える必要がある。
3. グローバル化が決して人々を守るわけではないという事実を忘れてはならず、国民の意志が巨大グローバル企業の経営に反映されるように、国家間での政治的協力を進めなければならない。そしてコロナ対策で生じた莫大な国の借金を将来の世代に背負わせないために、税制改革や資源確保などの政策を早くから進めておく必要がある。
4. グローバル化が招いた世界的な危機から民衆を守れたのは一国主義的に働く国家の力であったことを自覚し、今後のグローバル企業の動向を各国政府が批判的にとらえなければならない。そしてコロナ肺炎に対する緊急対策で生じた国の借財を国家の力で公平に解決するために、思い切った税制の改革や領域内の資源の国有化までをも考える必要がある。

問 11 傍線部⑧「やがて起こり始める国民各自の世界観の轉換であろう」とありますが、筆者の考える「国民各自の世界観の

轉換」について記述した次の各文の中から適切なものを二つ選び、その番号をマークしなさい。

1. 日本人は、かつての伝統的な世界観を取り戻し、現実世界を無常ととらえていくのがよい。
2. 日本人は進歩主義のイデオロギーを忘れて、かつての一国主義的な国家思想を復活させてゆくべきである。
3. 人類は、文明を守るというこだわりから解放されて、自然に対して妥協して生きるのがよい。
4. 人類は、古代から現代にいたるまで文明的に進歩したことはないと考え、文明を見限るべきである。
5. 人類は、自らの知恵と技で自然に挑み、世界を変革できるといふ傲慢さを捨て、自然との共生をはかるのがよい。
6. 近代文明の進歩とは人間の幻想であり、人間はこれまでも自然を克服してはいなかったことを自覚すべきである。

問 12 傍線部⑨「色は匂へと散りぬるを、我か世たれそ常ならむ」とありますが、「いろは歌」において、この傍線部分の直後にくる語句として正しいものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

1. 酔よひもせず
2. 有あ為ゐの奥山
3. 浅あき夢見し
4. 今け日ふ超えて

### 第三問 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

嗟さ哉がてんわう天皇こうばふたいしと弘法おほん大師たしと、常に御おほん手跡てしを争あはせ給たまひけり。ある時、御手本おほんてほんをあまた取り出ださせ給ひて、大師に見せ参まゐらせられけり。その中に※<sub>2</sub>殊勝しゆしやうの一卷ありけるを、天皇おほん仰おほせごとありけるは、「これは※<sub>3</sub>唐人たうの手跡なり。その名を知らず。いかにも、かくは字あび難がたし。」①めでたき重宝じゆうほうなり」と、しきりに御秘藏おほひひざうありけるを、②大師、よくよく言はせ参まゐらせて後、「これは※<sub>4</sub>空海くうかいがつかうまつりて候まうらふものを」と奏そうせさせ給ひたりければ、③天皇、さらに御信用おほんしんぎようなし。おほきに御不審おほんふしんありて、④「いかでか、さることあらん。」⑤当時書あたらかるるやうに、はなはだ異なるなり。⑥階立はしても及ぶべからず」と勅定ちやくぢやうぢやうありければ、大師、「御不審おほんふしんまことにそのいはれ候ふ。⑦軸えいけんをはなちて合はせ目を叡覽えいけん候ふべし」と申させ給ひければ、すなはちはなちて御覽おほんけんするに、「その年その日、青龍寺せいりゆうじにおいてこれを書す、⑧沙門しゃもん空海」と記せられたり。天皇、この時御信仰おほんしんぎようありて、「まことにわれには勝まさられたりけり。それにとりて、いかにかく⑨当時の勢せいひには、ふつと変はりたるぞ」と尋ね仰たづせられければ、「そのことは国によりて書きかへ候ふなり。⑩唐土たうどは大國なれば、所に相応して勢せいひかくのごとし。日本は小國なれば、それにしたがひて当時のやうをつかうまつり候ふなり」と申させ給ひければ、天皇、おほきに恥ぢさせ給ひて、⑪その後は御手跡争おほんてしあひなかりけり。

『古今著聞集』より

- ※1 手跡 書いたもの、またその技能。
- ※2 殊勝 とてもすぐれた。
- ※3 唐人 昔の中国人。
- ※4 空海 弘法大師のこと。
- ※5 当時 現在。
- ※6 階<sup>はし</sup> はし。
- ※7 沙門 僧<sup>そう</sup>の階級の一つ。
- ※8 唐土 昔の中国。

問 1 傍線部①「めでたき重宝なり」とありますが、天皇がどのように言ったのはどうしてですか。その説明として最も適切

なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

1. 唐代の中国の書は、名のない書家の手になる作品でさえも、書の手本に使えることを大変便利に感じていたから。
2. 唐代の中国の著名な書家の作品であるのに、作者の銘が作品に入っていないことが当時はとても珍しかったから。
3. 自分の大切にしていた唐代の書の中にあつた、とうていまねできないような見事な書体に感服していたから。
4. 日本ではその存在をまだ知られてはいないが、中国の有名な書の作品を、弘法大師に見せて自慢したかったから。

問 2 傍線部②「大師、よくよく言はせ参らせて後」とありますが、この部分の意味内容として最も適切なものを次の中から

一つ選び、その番号をマークしなさい。

1. 弘法大師が、天皇が持つ書の収集品の自慢話について、天皇本人から入念に聞かされた後で、
2. 弘法大師が、天皇が話題にしている書について、天皇自身に十分論評させた後で、
3. 天皇が、自分が所有する書の作品の批評について、弘法大師に一通り話してもらった後で、
4. 天皇が、自分が大切にしている書について、弘法大師の肯定的な評価を聞いた後で、

問3 傍線部③「天皇、さらに御信用なし」とありますが、天皇はどのようなことに対して「信用なし」だったのですか。最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

1. 弘法大師が、天皇が所有する書は自分の手によるものだと申し出たこと。
2. 弘法大師が、天皇の大切な収集品がもとは自分の所有物だったと主張したこと。
3. 弘法大師が、天皇の持つ書以上の素晴らしい作品を書くことができるかと自慢したこと。
4. 弘法大師が、天皇をだまそうとして唐代の中国の書を偽造ぎぞうしたのだと告白したこと。

問4 傍線部④「いかでか、さることあらん」とありますが、この部分の意味内容として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

1. この書は本当に弘法大師の所有物だったのだろうか。
2. この書が弘法大師の手による書であるはずがない。
3. はたして弘法大師にこれ以上の書を書けるのだろうか。
4. 弘法大師は、この書の由来を知っているのだろうか。

問5 傍線部⑤「軸をはなちて合はせ目をえいらんさうら観覧候ふべし」とありますが、弘法大師は何のためにこのようなことを言ったのですか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

1. 天皇があまりにも自分の言うことを信用しないことに腹を立て、書の中に隠れていた自分の署名を公開することで、天皇を驚かせてやりたかったため。

2. 天皇から自分が書を偽造したと疑われたので、自分しか知らない巻物の秘密を明かすことで、天皇の自分に対する信頼を取り戻したかったため。

3. かつて自分が唐に渡っていたことを一向に信用しない天皇に対して巻物の内部を見せることで、確かに唐において書かれた自分の書であることを証明したかったため。

4. 天皇が高く評価した巻物の中に隠れている作者名を、天皇自身の手によって確認させることで、自分が言っていることが正しいと天皇に認めさせたかったため。

問6 傍線部⑥「当時の勢ひ」とありますが、どのような書風であったのですか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

1. 弘法大師の筆跡が、唐の国がもつ雄大さを反映して、だいたん大胆な書風であった。

2. 弘法大師の筆跡が、平安時代の都の規模を反映して、こじんまりとした書風であった。

3. 弘法大師の筆跡が、唐から輸入されたか華麗な文化を反映して、勇ましい書風であった。

4. 弘法大師の筆跡が、貴族的な平安文化を反映して、繊細な書風であった。

問7 傍線部⑦「その後は御手跡争ひなかりけり」とありますが、どうしてですか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

1. 弘法大師によって、その雄大な書風を生んだ唐の豊かな国格と日本の実情を比べられ、自分が統治する国の小ささに恥ずかしくなった天皇が、もはや書の才能などを弘法大師と競うような気にはならなくなってしまったから。
2. 天皇との争いを望まなかった弘法大師によって、それまでは秘密にされていた書の作者が当人によって明かされることで恥ずかしくなった天皇が、二度と弘法大師に対して競争心を起こさないような気分にさせられてしまったから。
3. 天皇が絶大な評価を与えていた書の手本が、場によって自在に書風を書き変えられる弘法大師によって書かれたものであることを当の本人から知らされて、そのような才能をもつ人物と競い合っていたことが恥ずかしくなったから。
4. 天皇が弘法大師を感服させるために秘蔵していた書の手本が、実はその弘法大師の自在な手による作品のひとつであったことを知って恥ずかしくなった天皇が、弘法大師のもとで腕をみがこうと思うようになったから。

問 8 次の各文について、本文の内容と一致しているものをすべて選び、その番号をマークしなさい。

1. 天皇は、自分と弘法大師以上の書家の存在を信じていた。
2. 天皇は、だれが書いたという先入観をもたずに、すぐれた書の評価していた。
3. 天皇と弘法大師は、書の大家であるとともに書の手本の収集家でもあった。
4. 天皇は、弘法大師が備えていた書に対する鑑定眼を高く評価していた。
5. 弘法大師は、唐の国際色豊かな文化の影響で、自らの書風が変わった。
6. 弘法大師は、自分の書の腕前が未熟であることを恥じて署名を隠した。
7. 弘法大師は、日本と中国とは書に対する評価の基準が違っていると指摘した。
8. 弘法大師は、その書の腕前を天皇から認められるようになった。